

## 地球環境研究センター ニュース

CGER: Center for Global Environmental Research

&lt;通巻第6号&gt;

vol. 1 No. 6

- 目次■ ●巻頭言「地球環境研究センターと地球環境研究グループ」-国立環境研究所長 小泉 明-  
●M. & D. B. シリーズ第6回「地球環境モニタリング Q & A (Q3~4)」  
●地球環境研究センター活動報告

## 【巻頭言】

## 地球環境研究センターと地球環境研究グループ

国立環境研究所所長

小泉 明



地球環境研究センターは昨年の10月に発足し約6ヶ月を経過した。この間、市川センター長はじめ関係各位の並々ならぬご尽力により着実に実績が築かれ、内外の期待に答えることができたと思う。

新組織になって、わが国立環境研究所には”地球環境”を名乗る2つの部門が生まれた。ひとつは地球環境研究センター、もひとつはや、兄貴分の総合研究部門地球環境研究グループであって、それぞれが全く異なった機能をもっている。

地球環境研究グループは、地域環境研究グループと並んで新組織のプロジェクト部門を構成している。そこには、統括研究官の下に温暖化現象解明、温暖化影響・対策、オゾン層、酸性雨、海洋、森林減少・砂漠化、野生生物保全の7研究チームがあり、いずれも地球環境の重要課題にとり組んでいる。

しかし上記7研究チームの研究分野はいずれも広く、それぞれが研究グループの規模でようやく対応できる程の内容である。したがってわが研究チームは、各分野のなかで特に重要なもの、しかも研究者の関心や持前の研究施設がそれに適したものを優先的にとり上げている。

これに対して地球環境研究センターは、地球環境の総体を対象として分野横断的な総合化研究を行うとともに、所内外の地球環境研究を幅広く推進するための連絡協力にあたるのが使命である。その業務の3本柱として、総合化研究、モニタリングならびに研究支援活動が掲げられている。ここで所内外というその「所内」が上記地球環境研究グループの各研究チームであることはいう迄もない。

この両者すなわち地球環境研究グループと地球環境研究センターが、各々の特徴を活かしてあるいは深く、あるいは広くそれぞれの研究を伸ばしていくとき、わが研究所は地球環境研究に向けてその力を最大限に発揮できるといえよう。

昨年6月末までの旧組織には、現在の総合研究（プロジェクト）部門に相当する部署は含まれていなかった。まして、10月に発足したセンターのように所内外、国内外に開かれた形の研究ユニットは存在しなかった。新組織によってスタートした地球環境研究グループと地球環境研究センターがそれぞれの持ち味を生かして十分に機能できるよう、私はできる限りの力を尽くしたいと思う。

好評！ モニタリングQ&Aシリーズ！！

## 地球環境モニタリング Q&A

(Q3～4)

地球環境研究センター 研究管理官  
井上 元

Q 3. 地球環境をモニタリングするということは、地球規模でモニタリングを行うと理解して良いのですか？

A / 地球規模での環境問題の監視、研究の推進のために行うモニタリングであり、必ずしも地球規模の広がりをもつものとは限りません。むしろ、我が国としてはアジア、西太平洋地域のモニタリングに重点を置いて、世界のモニタリングネットワークと連携して、全体として地球規模の観測・監視ができるように貢献していくことが重要ではないかと考えています。また、世界全体のモニタリングの視点、あるいは、地球環境研究の推進の視点から重要と判断される地点が外国にあるならば、当該国と協力のうえそこで観測が出来るように努力することとしています。

Q 4. 地球環境研究と地球環境モニタリングとの関係はどうなっているのですか？

A / 地球環境研究は国立環境研究所においては、地球環境研究総合推進費（以下、推進費と呼ぶ）によって推進されており、他の省庁においては、推進費に加えて独自の研究費でも行っています。

地球環境研究センターの業務としては、地球環境モニタリングのほかに地球環境研究の総合的推進のため、総合化研究を実施したり、推進費による研究を実施している研究者を集めて地球環境研究連絡会議などを開催すること、また、地球環境研究推進のためのスーパーコンピューター、地球環境データベースなどを整備することなど、研究の総合化や支援を中心とした役割が定められています。

地球環境研究センターで行うモニタリングは、研究や行政施策を支援する長期的なフィールド測定で、予算的には推進費とは別に地球環境研究センター予算として認められています。

地球環境モニタリングと地球環境研究は、密接な連携を持って進められるべきであり、どこで何をどの程度の精度で測定するかなどについて研究者の意見を反映し、環境庁のモニタリング小委員会の審議を経て、地球環境モニタリング計画が策定されます。また、地球環境研究により、独創的な測定方法の開発、測定手法の確立がなされたものについて、地球環境モニタリングで長期にフィールド測定を継続することもあります。このように密接な関係を持つといっても、モニタリングは研究とは異なった理念に基づき独立的に遂行されます。

声のコーナー

前号地球環境研究センターニュース vol.1 No.5 の「M. & D.B. シリーズ 地球環境モニタリング Q & A」に関し、気象庁から次のような一部誤解を与える箇所があるとのこと意見をいただきましたので訂正致します。

「気象庁のモニタリングは多くの分野の人々が期待している気象予報業務を行うためのものである」を、

「気象庁のモニタリングは、日常多くの分野の人々が期待している気象予報業務を行うためばかりでなく、国際的な観測・監視計画のもとに気候変動を中心として地球環境の実態把握を行うとともに、気候変動の予測等地球環境の将来予測に関する研究に資することを目的としています。」に訂正願います。

【お知らせ】

地球環境研究センターニュース原稿募集について

今後当ニュースにおいて、読者の皆様による「地球環境問題、地球環境研究」等についてのご意見をお寄せいただき、広くアピールすることにより、地球環境全般に対して貢献していくために、読者の広場的なコーナーを設けることを考えております。

原稿は最大でも1,200字程度にまとめて、最終ページの記載の“連絡先”宛てまで。また、匿名、ペンネームによる投稿の場合は、その旨ははっきりとお書きください。

なお、掲載させていただく原稿については、多少の修正を加えさせていただく場合がございますのでご了承ください。

地球環境の予報

次号から新年度を迎えることとなります。当センターでは、新年度も充実した内容を盛り込むべく一層努力してまいりたいと思います。

そこで、次号からの掲載記事を一部紹介いたします。

- 1 地球環境研究センターニュース vol.2 No.1 (1991年4月号)
  - ① アジア太平洋地域における地球温暖化問題に関する研究ワークショップ特集
    - ・ 同ワークショップにおいて採択された「サマリー」の全容紹介
    - ・ その他
  - ② 3月にジュネーブで開催されたIPCC会議の報告
    - － 地球環境研究センター 総括研究管理官 西岡 秀三 －

その他盛りだくさんの内容で、貴方のハートをガッチリキャッチ！

地球環境研究センター活動報告

1991. 3. 3~6

- 第3回 西表観測所分科会 開催（現地）  
＜分科会出席委員＞ 植田洋匡（九州大学応用力学研究所）  
金城義勝（沖縄県公害衛生研究所） 他
- 5 第2回 航空機観測分科会 開催  
場所：昭和航空株式会社 八尾事業所（八尾空港）  
＜分科会出席委員＞ 小川利紘（東京大学理学部地球物理研究施設）  
鶴田治雄（農業環境技術研究所）
- 7 第2回 発生源モニタリング分科会 開催  
＜分科会出席委員＞ 陽捷行、鶴田治雄（農業環境技術研究所）
- 8 第2回 日韓フェリー分科会 開催  
場所：(財)地球・人間環境フォーラム 会議室  
＜分科会出席委員＞ 半田暢彦（名古屋大学水圏科学研究所）  
津田良平（近畿大学農学部）  
高野健三（筑波大学生物科学系）
- 14 第3回 日韓フェリー分科会 開催  
場所：幸揚船渠(株)  
＜分科会出席委員＞ 津田良平（近畿大学農学部）
- 16 第2回 外洋モニタリング検討会 開催  
＜検討会出席委員＞ 秋元肇（国立環境研究所） 他
- 18~20  
"The Asian and Pacific Workshop on Global Warming Research" 開催  
場所：国立環境研究所 中会議室  
（出席者その他詳細については来月号にて特集予定）

編集後記

「地球環境研究センターニュース」第6号をお届けします。

今月号については、"The Asian and Pacific Workshop on Global Environmental Research"の記事が間に合いませんでした。そのかわりに来月号において特集を組む予定ですので、どうぞご期待下さい。

また今月も、別紙でセンターニュース送付の希望調査を行っております。まだ登録を済ませていない方はお早めに登録して下さい。先月、先々月号で希望した方については、改めて希望する必要はありません。

この「地球環境研究センターニュース」は原則的に月1回のペースで発刊していく予定です。定期的な名簿の更新以外にも、随時送付希望を受け付けておりますので、下記までお問い合わせ下さい。

編集・発行 環境庁 国立環境研究所  
地球環境研究センター  
連絡先 観測係（大橋）

〒305 茨城県つくば市小野川16-2  
TEL. 0298-51-6111 EXT. 374  
FAX. 0298-58-2645